

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	7 月 16 日 ( 水 )	野崎

## ● 実施計画

活動テーマ		
光と影の探検ごっこ		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
先月の活動で虹が出来る仕組みに興味を持ち、水遊びの時に虹探しを良くしていた。太陽の光に当たると物の影が出来る事は理解していて、身近な自然現象に興味を持っている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:50	<p>・影について知っている事を子ども達に発表してもらおう。</p> <p>「影はどんな時にみられるか？」 「影が出来るときに必要な物はなにか？」 など、問いかけていき、手を挙げて発表してもらい、どんな些細な事でもよいのホワイトボードに書いていく。</p>	<p>【準備物】 懐中電灯4本 カラーセロファン、レースの布、ペットボトル(グループに1つ用意) 懐中電灯の光を当てる玩具</p> <p>【環境構成】 ・壁に机をくっつけ影を壁に作れるようにする。 4グループで行う為、子ども達が座るスペースを考えて机を並べていく。 ・発表する時はホワイトボードが見えやすいように椅子の向きを変えて座る。</p>
10:00	<p>・懐中電灯を使って様々な物に光を当てて影を作って遊ぶための準備、説明をする。</p> <p>1グループ4～5人のグループで活動</p> <p>懐中電灯の使い方、1グループで1つの懐中電灯を使うにはどうしたら良いか子ども達に問いかけ、ルールを決めていく。</p>	
10:10	<p>・懐中電灯の光を当てて影を作って遊ぶ。</p> <p>懐中電灯を当てる物を各自持ってくる。 影がどんな風に来たか子ども達の発見に耳を傾け、気づきから「これはどうだろうと？」考えるきっかけを作っていく。</p>	
10:40	<p>・懐中電灯で影を作って気付いたことや、感じた事を発表してもらおう。</p> <p>手を挙げて発言をしてもらおう。子どもの発言を具体的に分かりやすくしながらホワイトボードに書いていく。</p>	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子ども達の発見や気づきに共感したり、不思議に感じたことを一緒に考えたりする中で、探求する事への楽しさ、面白さに気付いていける様に声掛けをしていく。</p> <p>・気付いたことや、感じたことを発言する時に、上手く自分の気持ちを言葉に出来ない子とそうでない子がいるので、どんな内容でも受け止めていき発言しやすい環境を作って行く。</p>	<p>・懐中電灯を使って影を作って遊ぶことで普段と違う活動を楽しみにして取り組んでいた。様々な物で影を作る中で、沢山の発見があり友達や保育士に発見や気づきを嬉しそうに話していた。</p> <p>・全体で感じたことを発言してもらう時も、友達の発言を聞き不思議に感じたことを伝え合い話が膨らんでいった。長い時間の活動になったが子ども達も興味を持っていたので集中して友達の話を聞いていた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子ども達と一緒に考え、疑問を解決していく事で、子ども達もより興味関心をもてた様だった。普段とは違った活動だったこともあり、子ども達が自ら考え取り組む様子もみられ楽しい活動となった。</p>	<p>普段使用しない、懐中電灯を使っての活動ということでの好奇心と、影絵という不思議だけれど面白い活動で、子ども達の「なんだろう?」「どうしてだろう?」「もっと知りたい」というワクワクした気持ちがあったようですね。「楽しい」「知りたい」ということが、学びの原動力になりますね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	8 月 25 日 ( 月 )	野崎

## ● 実施計画

活動テーマ		
たべもの～野菜～		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
とうもろこしの皮むきの体験から野菜興味を持ち始めているが、夏野菜にどんな野菜がある知らない子が多かった。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:45	・絵本「やさいのずかん」を読む。	<b>【環境設定】</b> ・ホワイトボードに野菜が場所(土の上、土の下、茎など野菜がなる場所)を図で描いておく。 ・どの部分を食べているかクイズでは、机にマスキングテープを貼って分類が出来るようにする。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:00	・野菜が育つ場所クイズを行う。	
10:20	土の中、土の上、茎に実がつく 3つの分類分けをみんなで考えていく。 ・野菜のどこの部分を食べているか分類分けを行う。 グループごとで考えながら、実、葉っぱ、根っこ、茎の4種類に分類分けをする。	
10:40	・ミールさんからの夏野菜の話を聞く。  当日の給食に出る夏野菜や子ども達の良く知っている夏野菜を中心に話をしてもらう。	<b>【準備物】</b> ・野菜カード ・マスキングテープ ・野菜の絵本

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の絵本を読みながら子ども達の知っている野菜や知識を話していく。</li> <li>・野菜がどうやってできるのか考える、野菜ができるまでの過程を知る。</li> <li>・土の中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知り、どこに育つ野菜であるのか探究を深めた。</li> <li>・友達と相談しながら、同じ部位を食べている野菜をグループに分ける活動を行った。</li> <li>・最後に「今日の給食にある野菜は、どの部分かな？」と生活に結びつけ、日常への関心へとつなげた。</li> <li>・ミールさんに話をしてもらうことでより食への関心を高めていける様にした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を読むと知っている野菜に対して反応があり、見たことある、おいもほりしたね。などと話しながら聞いていた。</li> <li>・どこで野菜が育つか考えていくと、知っている野菜もあればそうでない野菜も多く、悩む姿も見られた。間違っても良いことを伝えていくと、自分なりに考えて答えを出していた。答え合わせをミールさんで行ったことで最後まで楽しく取り組むことが出来た。</li> <li>・野菜のどこの部分を食べているかを考えていくと、グループで意見が分かれることもあったが、話し合いを行いながら答えを出していた。</li> <li>・ミールさんには当日の給食に出る「冬瓜」を中心に話をしてもらった。冬瓜という野菜を知らない子どもも多くいたので、興味を持って話を聞いていた。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者自身が知らない知識もあり、子ども達に共有する際に下調べが必要だった。散歩中に畑を見る機会もあまりないので、実際に畑になっている野菜を見る経験が少なく、どうやって野菜がなっているかを知らない子が多いと感じたので、畑を見に行く機会を作れたら良かった。</li> </ul>	<p>事前に担任自身が知っておかないと、子ども達の活動を支える事も促す事もできないので、この活動をするにあたっては、事前学習が必須になると思います。</p> <p>実際の畑(さつま芋畑)が近くにあるので、見られると良かったですね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	10 月 10 日 ( 金 )	野崎

## ● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
①色について知ろう ②色を作ってみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水遊びの時にいった、色水遊びで色が混ざる様子を楽しみ遊ぶ中で、色を混ぜる事で違う色が出来る事が理解出来ている様だった。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達にどんな色を知っているか尋ね、知っている色を出してもらおう。</li> <li>子ども達から出た色を、ホワイトボードに書き出す。 様々な色が出るように、洋服や保育室にある色など身近な物に注目出来るように話をしていく。</li> <li>・保育園にある画用紙の色をホワイトボードに貼り、好きな色を選び、理由と共に発表してもらおう。</li> <li>友達と同じ色、理由でもよいので、発表出来たことを認め、意見を言いやすい雰囲気を作っていく。</li> <li>・暖色、寒色、中性色についての話をして、色のイメージや意味などを伝える。</li> <li>子ども達に問いかけながら、色のイメージや色について話をする。</li> <li>・絵の具を混ぜて色を作る。</li> <li>色が変わる時の驚きや発見を楽しめるように声掛けをしていく。</li> <li>・作った色で好きな色を発表する。 出来た色がどんな色か、身近な物にたとえながら話をしていく。</li> </ul>	準備物 絵の具、筆、バケツ、絵の具を塗る紙、新聞紙 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな発言にも共感したり、話を広げたりしていき、子ども達が自分の意見を言いやすい雰囲気づくりをしていく。</li> <li>・色のイメージをホワイトボードに書き、色についての話の内容が目で見ても分かりやすくなるようにしていく。</li> <li>・絵の具やバケツはテーブルごとに1セットずつ用意していく。筆は一人一本用意する。バケツの水は汚くなったら都度取り換えていく。</li> </ul>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達に知っている色を聞き、ホワイトボードに書き出した。様々な色を知っていて、珍しい色を言おうと考え発表していた。</li> <li>・保育園にある画用紙の色を見せ、好きな色を選び、理由を発表してもらった。</li> <li>・暖色、寒色、中性色の話、色のイメージや意味についての話をする。好きな色の理由が色のイメージに沿っている子もいたため、その話を交えながら話をした。</li> <li>・絵の具を混ぜて色を作った。色の量によって思った色にならなかったり、新しい色が出来たりと発見があった様だった。</li> <li>・作った色で好きな色を発表してもらった。着ている洋服の色など、似ている色を探し見比べながら話をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群青色、青緑、エメラルドグリーンなど様々な色が出た。出てない色を発表しようとする姿が見られたので、クレヨンや身近な物の色を想像できるように話した。</li> <li>・好きな色の理由を発表してもらったと、色のイメージに沿った理由を言う子もいた。カッコいいから、可愛いから等の単純な理由でなく、自然でナチュラルな色だから、爽やかだからなど様々な理由が聞かれ面白かった。</li> <li>・絵の具を混ぜて色を作るという活動はあまりやることがなかったので、子ども達にとっても新鮮で様々な発見があったようだった。黒が多すぎると全部黒になってしまったり、混ぜる色の量によって色が変わっていく事を知ると、量を調整しながら色を混ぜていた。</li> <li>・作った色の中で好きな色を発表する時には、どう発表してよいか戸惑う様子もあったが、「友達の洋服の色だね」などと話をする、子ども達が似ている色を探し、似ている色があると「ほんとだ！」と色を探す事を楽しむ様子があった。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・色水遊びで色が混ざり、違う色に変化することは知っていた子ども達だが、色水とは異なる色の混ざり方をする絵の具の活動は様々な発見があり楽しんでた。普段の制作で、色を混ぜる活動を取り入れても面白いなと感じた。</li> <li>・色のイメージや意味を知らなくても、子ども達なりに色から感じ取るイメージ(その色を好きな理由)が合っていた事に驚いた。</li> </ul>	<p>身近な色を使っただけの活動で、「知っている」という事から、思ってもみない色の変化を楽しんだり驚いたり、友だち同士で予想等しながらの活動になっていたと思います。昨年度の玄関での色水遊びでも、色を混ぜて遊んだりしていたので、ある程度は何色になるか想像ができたと思うが、それが当たった時の嬉しさと、思ってもみない色になった時の不思議さを感じていた様ですね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	1 月 15 日 ( 水 )	野崎

● 実施計画

活動テーマ	
①お金ってなあに？ ②お金ってどんな形？ ③お店屋さんごっこで交換を体験 ④必要な物？欲しいもの？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
以前プレップで行ったお店屋さんごっこで現具のお金を使った商品のやり取りを楽しんでいた。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
9:45	昔はどのようにして物の売り買いをしていたのか昔話「わらしべちょうじゃ」を読み考える。昔は物々交換をして欲しいものを手に入れたり、お金の代わりに貝殻を使っていたことを伝えた。その後価値について話をし、子ども達にペアを作ってもらい保育室の玩具を使って物々交換を行った。
10:10	実際に本物のお金を観察した。観察後感じたこと、気が付いたことを子ども達から発表してもらった。
10:20	玩具のお金を使ってお買い物ごっこをする。共通の目的としてカレーの具材を各グループ予算2000円で購入する、ただしどんな具材を購入するか、あまった金額で他の商品を購入するかは各グループで相談して決めるようにした。
10:20	各グループでまずはどんなカレーを作りたいか相談する時間を設ける。  カレーに使用する具材が決まった後は金額の確認を行い余った金額をどうするか考える時間を作る。  各グループが前に出てきてどんなテーマでカレーを作ったか、余った金額をどのように使ったか、合計金額はいくらになったかを発表する時間を作った。
	<b>【環境設定】</b> ・子ども達が物々交換をイメージしやすいよう「わらしべちょうじゃ」を導入として読み聞かせる。 ・価値について説明をする時に子ども達にとって身近な物で例える。 ・子ども達の中からでてくる自由な発想を活動の中に取り入れる。 ・本物のお金についての質問が上がってくることを想定して事前に調べておく。 ・子ども達が気になった事を自由に質問が出来るような時間を作る。 ・子ども達で自由に考え、相談し合い意見を合わせるような場を作る。 ・自分たちの意見を全体に発表できる時間を作る。  <b>【準備物】</b> ・絵本 ・現金 ・玩具 ・玩具の硬貨 ・商品が描かれているプリント  <b>【事前準備】</b> ・お買い物ごっこをどんな内容で行うか計画をたてる。 ・現金に対しての質問を予想し答えを調べておく。 ・お買い物ごっこで使用する道具の作成。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・「わらしべちようじゃ」を読んだことで子ども達に物々交換をイメージさせることが出来た。</p> <p>・物々交換はペアの一人が先に選んだ玩具と同価値、相手が好きそうなもの等考えて交換する玩具を選んでいった。</p> <p>・本物の現金を手にして紙幣の透かしやホログラム、印字番号など細かに観察を行っていた。</p> <p>お買い物ごっこではグループ内でどんなテーマでカレーを作りたいか考え一人一人がきちんと自分の考えを提案形式で伝え合っていた。</p>	<p>・「わらしべちようじゃ」を読んだ後に子ども達から「昔は交換してたんだね」「貝がらでお買い物もしてたんだよ」と現代のお金の仕組みとは違うことをイメージできていたようだった。</p> <p>・物々交換の際に「同じ種類だからこれは交換してくれるかな」「これもたくさん入っているから」「これはあの子が好きそうだから」と自分なりに同価値を考えていた。</p> <p>・お買い物ごっこで「肉を2つ入れたい」「これを買ったらこれは変えないけどどうする?」。と子ども達同士で金額と友達の意見を気にしながら購入する商品を決めていた。「途中金額が分からなくならないように購入する物の上に同じだけの硬貨を乗せてみるとお金が余るか足りないかわかるよ」と保育者が伝えるとしっかりと購入する商品に硬貨を乗せて数えていた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>子ども達に物々交換を体験してもらったが、自分とは違った価値観を持っている相手の事を想って交換する玩具を探す様子は相手の気持ちを考えるきっかけにもなると感じた。</p> <p>本物のお金を観察する時間は子ども達にとって新鮮な時間だったらしく話を聞いてみると買い物でも電子マネーでの買い物が多いらしく、最近は昔ほど現金は身近な物ではないのかもしれないと感じた。</p> <p>お買い物ごっこでは子ども達でグループを作りどんなテーマでカレーを作るか考えてもらったが、自分の意見のみを貫こうとせず周りの子の意見も尊重しようとする姿が見られた。</p>	<p>最近は電子マネーだったり、ネットでの買い物が多くなり、実際にお店の人とやり取りをする機会も減ってきているので、子ども達もピンと来なかったりするのではないのでしょうか。それと同時に、『労働してお金を得る』ということに対する意識もあまりないのでは、と思います。実際に働くとなった時に、どんな意識を持てるのか、また、収入にあったお金の使い方ができるのか、少し心配になったりもしますね。</p>